



生き物ランドオープン！

Wonder Farmer Projectの生き物チームが準備してきた「生き物ランド」がついにオープンしました。ここまで、生き物の飼い方を調べ、飼育環境を整え、実際にお世話をし、他学年に宣伝し、会場レイアウトを考えるなど、様々なことをしてきました。

特に宣伝は、みんなで手分けして各教室に直接生き物を紹介したり、放送委員さんをお願いして全校放送させてもらったりしたので、子どもたちにとってかなりの緊張だったようです。

しかし、緊張した分、達成感はかなりのものでした。ある子は、放送委員のお兄さんから、「こういうことをしたかった。もっとどんどんやってほしい！」「2年生からこんなことをできるなんてすごい！」と活動を認めてもらえて、とてもうれしそうな顔をしていました。



【全校放送で生き物ランドの宣伝】

生き物ランドには1年生を中心に、たくさんのお客さんが来てくれました。SOLANは生き物が好きな子が多いですが、トカゲやカナヘビ、カエルなど、普段触ることができない様々な生き物に触れることに大興奮だったようです。



【手作りの看板の前で生き物ランドオープン！】



【1年生から6年生までお客さんが来てくれました】



【優しく生き物の魅力を教えています】



【脱走事件を起こしたカメ、捜索の末に無事保護されました】

生き物ランドを開催する子どもたちを見ていて、とても感心したことが3点あります。

①責任感が強い

みんな時間になると、「生き物ランドだ！」と言いながらラーニングコモンズに向かいお客さんを待っていました。「責任と責任感の違いは自主性にある」という言葉を聞いたことがあります。責任は立場や役割によって与えられるもので、責任感とは自らもつものだと聞いて、なるほどと思ったものです。担当教員の私が毎回来るように言ったわけでもないのに、毎回自然と全員が集まっていたのは、「自分たちがしっかりしなきゃいけない！」と責任感をもっていただからでしょう。2年生なりに自らの役割をしっかりと果たそうとする姿は、とても立派でした。

②よく気が利く

1年生に、「触ってみる？」と声をかけたり、「ここをさわるとすべすべだよ」と教えてくれたりと、よく気が利くなと思いました。2年生の子たちのもつ人柄のよさが、よく生かされていて、見ていてとても温かい気持ちになりました。

また、「触ったら最後に手を洗ってね！」と声をかける様子から、お兄さんお姉さんとして振る舞っているなと感じました。私が教育実習の時に、担当教官から、「背伸びしてがんばってがんばってがんばって、背伸びを止めて休んだ時に、少し成長している自分がある」という言葉をもらいました。2年生のみんなもお兄さん、お姉さんとしてがんばろうとする中できっと成長する部分がたくさんあったと思います。

③客引き上手

大きな声で、「今ならカナヘビさわれるよ〜！」「カブトムシがいるよ〜！」と客引きをしていました。きっとお店の人が声を出しているイメージがあるのでしょうか。恥ずかしがらずに元気よく楽しそうに声を出す姿に思わず笑顔になりました。こういったよさは、きっと将来に役立つ素敵な資質ですね。

たくさんのお客さんに来てもらい、子どもたちは達成感でいっぱいだったようです。自分たちが思い描いたものを実現することは、自己肯定感を高め、将来への期待感を高めることに繋がります。「願ったことをがんばって叶えるって気持ちいい！また次もがんばりたい！」こんな思いになってくれたらうれしいなと思っています。